

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	都市計画道路3・3・2号新川南流山線立体交差事業			会計	款	項目	大	小
政策	O1	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	道路建設課				
施策	1-5	土地利用・生活環境に配慮した道路整備	主管課長	小野 満寿夫				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市民・道路利用者	意図	市民や利用者の安全及び利便性の向上を図る。
事業内容	慢性的な交通渋滞が発生している主要地方道松戸野田線のバイパス道路として、千葉県が事業主体となり、用地取得及び工事を実施し、その事業促進のため、事業費の一部を市が負担するものである。延長 L=603m			
事業開始から現在までの状況変化	本路線は、主要地方道松戸野田線のバイパス道路として交通混雑の緩和及びつくばエクスプレス沿線整備地区である西平井・鯉ヶ崎地区のまちづくりを支援する幹線道路として整備が急がれている。平成30年度に事業期間延伸に係る事業認可変更を行い、令和2年度の供用開始を予定している。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	整備率	78.60	82.60	88.20	%	↑↑↑
②							
③							
④							
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果

目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）

県事業分は、流鉄を横断する橋梁上部工を施工した。市事業分は、関連市道付替に伴う3名の地権者の用地取得及び2名物件補償を行った。また千葉県との負担協定に基づき負担金を支出した。

事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	78,269,967	51,379,948	60,585,551
事業費(b)(円)	77,171,567	48,023,948	57,289,551
うち一般財源	11,471,567	10,923,948	57,289,551
職員給与費(c)(円)	1,098,400	3,356,000	3,296,000
人役・職員(人)	0.16	0.50	0.50
人役・再任用(人)			
人役・臨職(人)			
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	B 削減の余地がややある
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	丁寧な事業説明による残地権者との用地補償契約の締結。	③取組における課題(Check)	適切な地元説明と安全な施工による地元協力の継続。
②H30に実施した取組(Do)	県事業は、橋梁上部工を施工した。市事業は、関連市道付替に伴う3名の地権者の用地取得及び2名物件補償を行い、概ね事業用地の取得した。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	引き続き、県事業工事受注者に対し、安全で円滑に工事を進めるよう促す。